

# 離転職者等職業訓練「保育科」募集案内 訓練生募集

県立和歌山産業技術専門学院では、下記のとおり訓練生を募集しています。  
受講を希望される方は、住(居)所地管轄のハローワーク窓口までご相談ください。  
また、申込みにあたっては、この募集案内のほか別添「令和7年度 学生募集要項  
(配布用)」もご確認ください。その際、出願に先立ち必ず和歌山信愛短期大学  
(073-479-3330)に問い合わせてください。

◇訓練科目 「保育科」(長期高度人材育成コース)

◇訓練施設 和歌山信愛短期大学  
和歌山市相坂702-2  
(厚生労働省指定 保育士養成施設)  
TEL 073-479-3330

◇訓練コース番号 5-07-30-207-05-0053

1. 訓練期間 (予定) 令和7年4月2日(水)～令和9年3月31日(水)〈2か年〉  
※訓練修了日は、令和9年3月31日より早くなる場合があります。
2. 募集定員 5名
3. 対象者 下記のすべての項目に該当する者
  - ・令和7年4月1日(火)に満20歳以上の方。
  - ・保育士分野での就職を希望し、公共職業安定所長の職業訓練の受講あつせんが受けられること。
  - ・国家資格等高い知識及び技能を習得し正社員就職を希望する方。
  - ・当該訓練コースを修了し対象資格等を取得する明確な意思を有する方。
  - ・ハローワークにおける職業相談においてジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングにより当該訓練の受講が必要と認められる方。
  - ・高等学校卒業または、同程度の課程を修了していることが必要です。令和7年3月大学・高等学校卒業予定者は対象としません。
4. 訓練経費 無料。ただし、教科書代、実習着等の費用は自己負担となります。  
(2年間で150,000円程度)
5. 募集及び選考
  - ・令和7年2月7日(金)～令和7年2月27日(木)
  - ・住(居)所地を管轄するハローワークでご相談のうえ、入学願書にて所定の手続きをしてください。  
※入学願書の申込みとは別に訓練施設の入学願書等に高等学校の卒業を証する書面[調査書(厳封したもの)もしくは卒業証明書]を添えて直接訓練施設に令和7年2月28日(金)～令和7年3月7日(金)までに提出する必要があります。
  - ・令和7年3月12日(水)に訓練施設において課題作文(600字程度)、面接による選考を行います。(9:50入場完了、選考開始10:00)  
(注)尚、当日体調不良の方は、受験をお断りすることがあります。また、受付で検温し37.5℃以上ある方は、受験できませんので予めご了承ください。
6. 訓練時間等 原則 月曜日～金曜日(土:補講の可能性有、日・祝日:休み)  
1日8時限程度(9:00～18:40)  
※履修状況により終了時間は異なります。  
但し、訓練施設のカリキュラムにより、宿泊訓練や夜間実習、土・日・祝日も訓練を行なう場合有。
7. 通学 公共交通機関利用もしくはマイカーでの通学となります。マイカー通学を希望される場合は要申請のこと。
8. 訓練概要 厚生労働大臣指定の保育士養成課程のカリキュラムを中心に、保育士と幼稚園教諭二種免許状の幅広い知識と技能を習得します。
9. 取得目標とする資格・免許 保育士、幼稚園教諭二種免許状取得  
※目標とする資格・免許取得が見込めない場合は、退校処分となります。
10. その他 令和7年度和歌山県予算が成立しなかった場合、又は厚生労働省との協議が整わなかった場合、本事業は実施しません。また、定員数に関し厚生労働省との協議で変更となる場合があります。

一定の要件を満たす方は「求職者支援制度」により「職業訓練受給給付金」の支給等を受けることができます。詳しくは、ハローワークにお問い合わせください。

問い合わせ先  
和歌山県立和歌山産業技術専門学院 総務課  
和歌山市小倉90  
TEL 073-477-1253

## 委託訓練カリキュラム（2年間）

訓練科目	保育科：和歌山	就職先の職務	保育士、幼稚園教諭
定員	5人		
訓練期間	令和7年4月2日 ～令和9年3月31日		
訓練目標	厚生労働大臣指定の保育士養成課程のカリキュラム及び幼稚園教諭二種免許状のカリキュラムを中心に、保育のスペシャリストとしての幅広い知識と技能を修得する。		
取得目標資格	保育士（国家資格）及び幼稚園教諭二種免許状（国家資格）		
	科 目	科 目 の 内 容	時間数
	開講式・修了式		
	オリエンテーション（1年次・2年次）		1000
	試験（1年次・2年次）		2500
	信愛教育ⅠA	聖書と入門書をテキストとして、建学の精神の基礎となるキリスト教を学ぶ。講義の他に、祈り、聖歌練習、ミサなどの宗教行事への参加を通して精神生活を豊かにし、人格の向上を図る。	700
	信愛教育ⅠB	聖書と入門書をテキストとして、建学の精神の基礎となるキリスト教を学ぶ。講義の他に、祈り、聖歌練習、ミサなどの宗教行事への参加を通して精神生活を豊かにし、人格の向上を図る。	700
	信愛教育ⅡA	聖書と入門書をテキストとして、建学の精神の基礎となるキリスト教を学ぶ。講義の他に、各種の講話や祈り、ミサなどの宗教行事への参加を通して、精神生活を豊かにし、奉仕の心を培う。	700
	信愛教育ⅡB	聖書と入門書をテキストとして、建学の精神の基礎となるキリスト教を学ぶ。講義の他に、各種の講話や祈り、ミサなどの宗教行事への参加を通して、精神生活を豊かにし、奉仕の心を培う。	700
	日本国憲法	憲法の基本原理を理解したうえで、日本国憲法の各規程を見ていき、それら基本原理が日本国憲法の中でどのように反映され、どのように保障されているか明らかにする。なお、身近な憲法問題について関心を持って講義に臨むことを希望する。	1400
	子育て・子育て支援論	本科目は、和歌山県を中心とした地域の子育て・子育て支援について理解し、専門的知識を身につけて地域貢献ができる人材育成を目指す。厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習と同等の内容を満たしている授業である。（和歌山県福祉保健部認定）	1400
	情報処理演習	インターネットを活用した情報の収集方法やワードプロセッサによる論文とレポートの作成方法、表計算ソフトウェアによるデータ処理などに必要なコンピュータリテラシーについて学習します。	1400
	英語ⅠA	基礎文法と英文の構造を学び、読解力、スピーキング、リスニングと発音、日常会話の能力を養い、用語を増やし、自己紹介文を書く。	1400
	基礎演習Ⅰ	愛の精神に基づく保育者に不可欠な基本的教養の育成に向け、文章作法・ピアノレッスン・パソコン操作のコース制を取って各学生に必要に応える。早期に、基本的な知識と技能を補強し、保育現場で求められる保育科の教育目標を達成できるように導く。	1400
	保健体育講義	高等学校までの保健体育の知識の上に、集大成として、生涯を通しての「健康づくり」に対する考え方を養い、実践方法を身に付ける。	700
	保健体育実技	これまでに培ってきた基本的な技術段階の上に、保育者として必要な裏付けとなる理論を深め、より高い技術能力を養うとともに援助法を学ぶ。また、「動くことの楽しさ」、「生涯体育の意義」を学び、生涯を通しての「健康づくり」の為、健康管理法を身に付ける。	2100
	紀の国の自然	和歌山の風土を形作る大地と気象、生物について概説する。さらに、そこに住む人々の生活と自然との関わりについて、調査学習を通じて理解を促すとともに、地震や津波、台風などの被害にも言及し、防災意識の向上を図る。	1400
	保育のこころ	信愛・保育科の教育理念の体得をめざし、保育のこころと奉仕の精神を理解する。また、保育者を目指すために必要とされる基礎技術や、保育現場に入るための保育学生としての基本的な心得を身に付ける。そして、近隣地域保育施設の体験を通して、和歌山の保育の実状と課題を発見する。	1400

学 科	保育者論	保育専門職としての保育者（幼稚園教諭・保育士）の職務と責務を理解し、保育者としての自覚や使命を培うとともに、職務を遂行する上で必要な基礎知識を習得し、心構えをつくる。受講ノートの作成を通して、将来の保育記録技術を養う。	1400
	教育原理	人間は教育を前提とする存在である。しかし現代社会において教育の概念は多岐にわたっており、その本来性が見失われているような実態もある。人間のかつその人らしく生きるためには、どのような教育が必要か。乳幼児の教育・保育に人間教育の原点を見出す。	1400
	保育原理 I	保育に関する基礎・基本を理解することを目的とする。また、保育の歴史や思想、子どもを育てる社会の現状と課題などについて理解し、保育者としての役割を幅広い視野から学ぶ。	1400
	社会的養護 I	保育士や児童指導員としての基礎的知識や基本原則、その体系、各児童福祉施設におけるその内容、施設職員としてのあり方、そこで暮らす子どもたちの実際の姿と支え方について理解や認識を深める。	1400
	子ども家庭福祉	保育士は、児童福祉法にその法的根拠をもつ福祉専門職である。保育士として社会に貢献するうえで欠かすことのできない、児童家庭福祉の歴史・理念・制度、子どもと家族を取り巻く現代的課題について学ぶ。	1400
	社会福祉	この世に生をうけてから亡くなるまでの生涯にわたり、私たちの生活と社会福祉は密接な関わりを持っている。具体的なトピックを取り上げながら、福祉専門職としての保育士に求められる、社会福祉の歴史・理念・制度・政策などについての基礎知識を学ぶ。	1400
	子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義・目的や保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本への理解を深めると共に、子育て家庭に対する支援の体制を学び、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子育て支援の現状と課題について考察する。	1400
	保育の心理学 I	乳幼児を理解するために、発達をとらえる視点を学ぶとともに、「身体・運動機能」「認知機能」「他者との関係性」「言語」について、発達を追って捉え、各段階の課題を理解する。また、乳幼児の学びの特性を理解し、それを支える保育について学ぶ。	1400
	保育の心理学 II	乳幼児の身体・認知・社会性・言語の各発達段階について理解する。また、記憶や学習の原理、動機づけ等、子どもの学びに関する発達、及び特性を理解する。さらに、特別な配慮を要する、障害のある子どもについて理解する。	1400
	子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解すると共に、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家庭関係等について発達の観点から理解を深める。さらに、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。	1400
	幼児理解と教育相談支援	子どもの発達の特徴及び、幼児理解の意義や方法を学ぶ。また、幼児理解をより適切に行うために保育場面の観察・記録の意義、目的、目的に応じた観察方法等を修得し、教育相談を実践するための援助に関する基礎的知識を理解すると共に、保護者を含めた組織的な取り組みや連携の重要性、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。	1400
	子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子供の身体的な発育・発達と保健について理解すると共に、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。さらに、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	1400
	子どもの食と栄養	子どもの成長・発達に必要な栄養に関する基礎知識を理解する。子どもの発育と食生活の関連を、新しい知見を踏まえて理解する。子どもの食育を展開するための知識と実践力を身につける。	1400
	障害児保育	保育現場では、理解し難く、関わりが難しい発達が気になる子どもたちについての対応が求められる。様々な障害について理解を深めながら、障害を抱える子どもが健やかに成長していくための保育現場における生活環境の在り方と保育者の役割、和歌山の状況について修得する。	1400
	特別支援教育	様々な障害等により特別の支援を必要とする子ども達が抱える特性を理解し、個別の教育的支援ニーズに関する知識や支援方法を学ぶ。また、組織的な対応を促進するために校内連携、関連機関との連携の在り方についての知識を身に付ける。	1400
子どもと音楽 I	音楽表現に必要な基礎的な楽典の知識を養う。それにより、歌う・聴く・ピアノを弾く・楽器のリズムを理解する・楽譜に書くなど、音楽表現の基礎力を養う。	1400	

ピアノ I	個人の技能レベルに即してピアノ課題曲（9段階のグレード設定）を学習し、基礎となる技術力を養う。簡単な生活の歌を弾き歌いできるようにする。弾き歌い曲をできるだけ多く習得し、保育現場での即戦力を養う。	2800
子どもの運動遊び	生まれながらに備わっている運動機能は、月齢や年齢が上がるにつれ発達していく。運動機能の発達に比例し、全身を使って遊ぶことが増えていく。運動あそびの経験は、基本的動作の獲得につながり、生涯に渡って、運動を楽しむ基盤となり、心の発達にもつながる。子どもの発育発達に応じた運動あそびの種類や方法を学び、実践する。	1400
音楽表現	「音楽表現」に関して他の領域とも関連させながら、音楽表現について保育者としての技術や手法を探る。	1400
造形表現	幼児の造形表現「つくる表現」についてより理解を深めるために、素材体験を通して材料・用具の取り扱い及びその指導法についても研究する。	1400
子どもと人間関係	領域「人間関係」のねらいを理解し、基礎となる、子ども一人一人のコミュニケーション能力、社会性、他者への信頼感を育み、個の育ちと協同性の育ちを目指す保育者の役割と、そのための具体的方法を考える。また、「人間関係」の基礎となる「愛着」について、臨床心理学的視点から理解を深める。	1400
子どもと言葉	幼稚園教育要領の領域「言葉」について、乳幼児期の言語的発達をふまえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本などの文化財とのかかわり等の具体的な言葉にかかわる保育内容を理解する。	1400
子どもと表現	幼児の表現の姿やその発達を理解し、音楽・身体・造形的な観点から保育者にふさわしい表現力とは何かを実践的な学習を通して学習する。また、それぞれの表現方法を学習しながら融合し、劇発表に発展させ、活動を通じて表現の多様性を認識し、自ら表現技術の引き出しを多くつくる。	2800
子どもの健康と安全	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、感染症対策やまた保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。さらに、子どもの体調不良等に対する適切な対応、健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する。	1400
乳児保育 I	乳児についての理解を深めるとともに、現場の事例をもとに乳児を取り巻く現況について理解し、乳児保育を行う際に必要な知識や技術を学習する。	1400
乳児保育 II	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。また、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実際について学ぶと共に、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	1400
社会的養護 II	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際について学ぶと共に社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。さらに、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。	1400
子育て支援	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解すると共に、子育て支援について様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。	1400
教育の方法と技術	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育む保育者として必要な幼児教育の方法・技術及び幼児教育における情報機器の効果的な活用に関する授業を行う。本授業での学びを通して、受講者が幼児教育の基礎的な考え方を理解するとともに、保育を行う上での指導技術の基礎を身につけることを目的としている。授業では、幼児教育における様々な事例を通して、受講者自身が課題解決を図る演習や受講者相互の意見交流など、主体的な学びとなるようにする。	1400
教育課程論	保育・教育課程は、指導計画や日々の保育・教育を展開する際によりどころとなる。保育・教育課程の意義を理解するということは、和歌山県をはじめ、現代社会における保育・教育の課題や乳幼児への理解をより深めるといことでもある。	1400
保育内容総論	保育所保育指針・幼稚園教育要領の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解するとともに、保育内容 5 領域に関する具体的な活動を考案する力・指導力を身につける。	1400

	保育内容の指導法Ⅰ	子どもの発達を領域「人間関係」「言葉」の観点から捉え、子どもの理解を深めながら保育内容について具体的に学習する。子どもの人間関係と言葉を豊かに育むための関わり方、及び、そこにおける保育者の役割について学ぶ。	1400
	保育内容の指導法Ⅱ	子どもの発達を領域「健康」「環境」「表現」の観点から捉え、子どもの理解を深めながら保育内容について具体的に学習する。子どもの心身の健康、子どもの環境との関わりについて理解するとともに、子どもの表現を保証する保育のあり方を学ぶ。	1400
	保育・教職実践演習（幼稚園）	保育者に必要な①使命感、責任感、教育的愛情、②子ども理解やクラス経営、③保育内容の指導力、④社会性や対人関係能力といった4つの資質と能力を確認し、高めるための内容を取り上げる。実技の演習、模擬保育、意見交流等を取り入れ、互いに研鑽し合う。模擬保育に関しては、本演習担当教員に加えて、教科担当教員の指導助言も踏まえ、計画、実践を行う。	1400
	卒業研究	和歌山地域における保育・教育の課題を各自の観点から捉え、その課題解決に向けて研究主題を決め、学術研究に取り組む。メンバーと協力し合いながら研究発表を行い、学術的な内容と形式を備えた卒業論文を作成する。	2800
		小 計	72100
実習	教育実習Ⅰ	1年次11月に8日間、主に和歌山県下の幼稚園・こども園において実習を行い、幼稚園教育の実際、特に保育者と子どもの活動を中心に観察し、保育活動全体を見る目を養う。	3600
	教育実習Ⅱ	2年次6月に12日間、主に和歌山県下の幼稚園・こども園において実習を行い、教員の指導のもとに、指導案の立案と実践を行い、指導の方法や指導者としての在り方を学ぶ。	5400
	保育実習Ⅰ	1年次2月・3月、主に和歌山県下の保育所・こども園と福祉施設において、それぞれ10日間、計20日間の実習を行い、児童福祉施設等の生活に参加し、子ども（利用者）への理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。	9600
	保育実習Ⅱ	2年次、夏期休暇中、主に和歌山県下の保育所において実習を10日間行い、保育実習Ⅰで体験学習したことをもとに、さらに保育所・こども園において実習を行う。見学・観察を継続し理解の段階を高め、参加・責任実習をとおして、乳幼児の理解と保育士・保育教諭の職務を具体的に学ぶ。	4800
	教育実習指導Ⅰ	実習に参加するために必要とされる心構えや保育の基礎的な知識・技術、観察の視点および記録の書き方を学ぶ。 実習終了後は自己評価を行い課題を明確にするとともに、改善に向けてPDCAサイクルを実践する。	1400
	教育実習指導Ⅱ	1年次の実習経験をもとに、実習の集大成ともいえる責任実習に向けて指導案を立て、実際に保育を展開する模擬保育を体験する。実習終了後は実習体験を発表し、学びの共有を図るとともにPDCAサイクルを実行し、学び続ける保育者を目指す。	1400
	保育実習指導ⅠA	実習を円滑に進めていくために保育に関する理論と実技の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、実習までの準備や心構えを学び、実習の課題を明確にする。	1400
	保育実習指導ⅠB	1年次の実習を振り返り、自らの学びを整理する。実習中の自己の活動や記録をもとに省察を行い、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて新たな学習課題を明確にする。実習の成果や反省を踏まえ、地域の保育現場における新たな課題を見出し、保育観を育成するための足掛かりとする。	1400
	保育実習指導Ⅱ	保育所・こども園実習の事前事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。実習後、実習体験の発表、担当教員との個別面談指導を行い、実習の総括としてレポートを作成する。	1400
		小 計	30400
		合 計	102500
就職支援の具体的内容	実習指導を通じた就職支援		
使用する機械・器具・教材等	プロジェクター、ML教室、楽器、演習用具、運動用具等		